

ぶち抜き大特集「大相撲と八百長」証拠・証言・全真相

カラー チラリズムの大研究／嘉門洋子撮り下ろし「ヘアヌード」写真集より

週刊現代

告発し続けた本誌がすべてを書く

日本の名医2011
モノクロ 臨死中・心臓病と闘う11人の男たち

「八百長」力士まだいる

定価400円

219 Weekly Gendai
2011 February

確定

人口減少
社会

3月解散・総選挙永田町一斉に動く

不動産暴落を覚悟せよ

住宅ローンは電話一本でこんなになくなくなる
感動 小山明子&大島渚「老老介護、私の場合」



告白

スライカップ古瀬絵理「私のオッパイ、そんなに见たい？」

カラー15ページ

財務省の野望、ターゲットは高齢者と金持ち

相続税は80%になる
最高税率
山崎武司「野村と星野」
連載 プロ野球一軍監督

体に優しい 「ロボット手術」の 旗手

患者の胸に1～2cmの小さな穴を開け、内視鏡と電気メスがセットされたアームを差し入れる。手術台から離れたコンソールで、3次元画像を見ながら、指先でアームを遠隔操作し、メスを操る――。

年間200例以上の心臓手術を一人で執刀し、最先端の手術に数多く挑んできた。そんな渡邊が、この手術支援用ロボット「ダヴィンチ」を使った心臓手術を初めて行ったのは05年12月。今年もすでに2人に実施し、通算114例。うち113人が健在だという。

「開胸手術と違って肋骨を切断しないので、高齢の方でも術後の回復が早いのが最大のメリットです。出血が少なく、感染症や合併症も起こりにくい」

狭心症や心筋梗塞から心臓弁膜症（弁形成）、成人先天性心臓病まで、適用範囲は広い。「外科医は、手術が成功して喜ぶ患者さんの顔を見たくて医者になる。私たちの目標は、世界最高のテクニックで、心臓手術を100%成功させ、元気に退院してもらうことです」

明日への夢は「世界一」だ。

わたなべ・ごう／58年東京都生まれ。金沢大学医学部卒業。東京医科大学（新宿区）教授も兼務。渡邊医師率いる「Team WATANABE」は、この10年で総手術数2726、成功率99.5%と世界屈指の実績を誇る

心臓
金沢大学附属病院（石川県金沢市）
心肺総合外科教授

渡邊剛

狭心症・心筋梗塞へロボット手術・心臓バイパス手術V



↓ ロボット手術中の渡邊医師（手前）。日本で心臓ロボット手術を本格的に取り組むのは渡邊医師一人だ

がんを上回る 脳・心臓の患者数

文／医療ジャーナリスト
吉原清児

厚労省推計（11年1月）によると、昨年1年間のがん死亡者数は約35万人。しかし、第2位である心臓病の18万9000人、第3位脳卒中の12万3000人の合計はがんの死亡者数に肉薄し、全死亡者の約3割を占める。この数字の背景に潜むのは、がんと比べてケタ外れに多い患者と患者予備軍の存在だ。

現在の患者数は心臓病166万人、脳卒中137万人。その潜在的な患者予備軍にいたっては、三大危険因子ごとに、高血圧4000万人、高脂血症3000万人、糖尿病2000万人。また、脳卒中後遺症による寝たきり、認知症なども年を追って増加の一途を辿っている。

そんな中、現在、画期的な治療法が数多く登場している。「切らずに治す」「体にやさしい」をキーワードに、患者本位の治療が開花したのだ。その結果、心臓突然死一步手前で命拾いする人が増え始めた。また、ある日突然脳発作で倒れても、最新治療によって壊れなかった脳が奇跡的に蘇り、半身麻痺などが劇的に回復するケースも多